

卒業生が柱のキャリア教育が 中高の一貫性を高める改革で 「ミライデザイン」へと進化

四季折々の自然に囲まれたキャンパスを持つ日本女子大学附属中学校・高等学校。失敗を恐れず「自ら考え行動する力」を育む自由な校風のもと、本物に触れる多彩な経験を通して豊かな感性を育む教育を進めている。日本で唯一理学部を持つ私立女子大の附属校らしく、理系も含めた幅広い進路に対応したキャリア教育に特色がある。

活躍する卒業生が キャリア教育の柱

日本女子大学附属中高のキャリア教育がめざすのは、自分と社会を理解し、自分らしい生き方を主体的に選択していく力を育てることにある。そのためには様々な職業について知る必要がある。同校のキャリア教育の鍵を握るのは、多彩な分野で活躍している卒業生たちだ。

著名人や何かを成し遂げた方をゲストティーチャーと呼ぶ学校も多いが、同校は、身近な存在としての先輩たちがいることの方が、生徒にとって大きな力になると考えている。その理由を國澤恒久教頭は次のように語る。

「女性には結婚や出産、子育てなど人生を選択する場面が、男性に比べてまだまだ多いのが現実です。だからこそ

先輩たちがどのような選択を経て今に至っているのかを語ってもらうことに大きな意義があると考えています」

たとえば中3を対象に毎年約20人の卒業生を招く「キャリア教室」では、生徒が希望するテーマごとに車座になって話を聞く。そこでは、職業の紹介というよりは、なぜその仕事についてなのか、中高の学びがどうつながっているのかが話題の中心になる。

海外との接点も広がっている。中3の選択校外授業では、シンガポールと



中高の卒業生でもある、本学理学部教授の研究室で水分子をみる実習を行った

マレーシアを訪れる「東南アジア異文化交流の旅」を設定。このプログラムでは、現地で働く卒業生から、海外での働き方や子育てについて聞くキャリアアトークが目玉になっている。

いわゆる理系分野へのキャリア教育にも積極的に取り組んでいる。

情報教育の分野では、NPO法人「みんなのコード」と連携し、IT業界のジェンダーギャップ解消につながるよう、女子校ならではの情報教育のカリキュラム開発に取り組んでいる。

「今年度からは、本学の建築デザイン学部と関係の深い建築業界に特化した人材系企業と連携し、ワークショップを実施するなど、建築設計分野への興味も喚起していきます」（國澤教頭）

中高の学びを強化する 「二貫教育プログラム」

こうしたキャリア教育の拡充と合わせて進めているのが、中学・高校の学びを体系的に強化する「二貫教育プログラム」だ。これまで別組織として運営されてきた中高を一体化する。先取り学習を行わず、大学附属校のメリットである豊富な時間を「進度」ではなく「深度」に使っていく。

今回の改革の意図について、國澤教頭は次のように説明する。

「近道ではなく、遠回りに価値を置き、時間と時間をかけて……という、本校の教育方針はまったく変わりません。



教頭 國澤 恒久 先生

ただ、これまで中学と高校それぞれで完結してしまいがちだったプログラムを、6年間を見通したプログラムへと進化させていくことを狙っています」

たとえば中3で自由なテーマで取り組む「年間研究」を、高校の探究活動の準備段階として位置づける、といった具合だ。また、中高間の教員の異動も始まり、中学と高校のカリキュラム連携もより有機的になる。さらに、従来のキャリア教育を「ミライデザイン」、国際教育を「グローバルリンク」として整理・体系化。キャリア教育も6年間通して深めていくことになる。

安田教育研究所・安田理先生の 女子伝統校のここが魅力



「森の中の学校」。校門から校舎までが遠い学校の代表格。といっても、樹々の中を歩くので健康的だし、気持ちがいい。恵まれた環境のもと、おっとりしていた郊外の伝統校がいま大きく変わろうとしている。中高の一貫体制を強め、カリキュラムも全面的に見直している。入試回数も増やし、広報活動にも力を入れ、やる気を出している。そうしたことの反映か、このところ模擬試験では志望者の増加が顕著である。

